

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定第4670102823号
法人名	社会福祉法人恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム 武岡五丁目
訪問調査日	平成 22 年 3 月 19 日
評価確定日	平成 22 年 5 月 13 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670102823号		
法人名	社会福祉法人恩賜財団 済生会支部鹿児島県済生会		
事業所名	グループホーム 武岡五丁目		
所在地	鹿児島県鹿児島市武岡五丁目16番23号 (電話) 099-282-6081		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年5月13日

## 【情報提供票より】(平成22年3月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月5日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤3人	非常勤5人 常勤換算8人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1～2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	50円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 0円
	または1日当たり		1,200円

## (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2歳	最低	78歳	最高	90歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会鹿児島病院・パールランド病院・横山記念病院・植村病院・横峰病院・島田内科・下田平南科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

団地の中央に位置し、公園やスーパー等が近くにあり、交通面でも利便性に優れたホームである。玄関前の季節の花が美しく、よく手入れが行き届いている。母体法人は医療機関や福祉施設を有し、医療連携体制が取れており、利用者の健康管理や緊急時の体制が整っている。職員は、利用者の特質や状況に配慮した声かけと対応を重視して支援している。自治会に加入しており、地域行事に参加し、散歩や買い物時には、地域の人々と挨拶や会話を楽しんでいる。全職員が、「ここで生活したい」「第二の家庭」といえる温かいホームをめざして、日々のケアに取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針の共有について、運営推進会議やスタッフ会議で話し合いを行い、具体的な取り組みがされており、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員が行い、話し合いをしながらまとめた。外部評価の結果についてもスタッフ会議で話し合いを行い、検討して改善への取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や町内会・消防・警察・地域包括支援センター職員、ホーム職員等が参加して、外部評価の結果の報告やホームの状況等を話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に満足度アンケートを行っている。訪問時には、必ず声をかけて、話やすい雰囲気づくりに努めている。出された意見は、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入しており、地域の行事や運動会に参加している。ホームでの行事にも回覧をまわして参加案内を行っている。小学生がホームに寄ってくれたり、散歩や買い物時には、地域の住民と挨拶や会話を交わし楽しんでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して自立した暮らしを支えて行くための事業所としての独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の意識付けとして、理念をホームのいろいろな場所に掲示している。職員は、理念を共有し、理念を基に日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や運動会に参加している。ホームでの行事にも回覧をまわして参加案内を行っている。小学生がホームに寄ってくれたり、散歩や買い物時には地域の住民と挨拶や会話を交わし楽しんでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員が行い、話し合いをしながらまとめた。外部評価の結果についてもスタッフ会議で話し合いを行い、検討して改善への取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や町内会・消防・警察・地域包括支援センター職員・ホーム職員等が参加して、外部評価の結果の報告やホームの状況等を話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口で課題解決の助言をもらったり、市の担当者とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。介護相談員の受け入れも行っている		
<b>おうさいていげん</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりをホーム便りで写真を盛り込み報告している。職員の異動や金銭管理についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に満足度アンケートを行っている。訪問時には、必ず声をかけて、話やすい雰囲気づくりに努めている。出された意見は、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、必要最小限に抑える努力をし、離職がやむを得ない場合は、引継ぎ等に最善をつくし利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会に、パートの職員も参加して、スタッフ会議で報告し研修内容を共有している。資格取得を希望する職員への配慮も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホームの交流を実施している。今年は、他のグループホームとの職員交流や意見交換・見学等に向けて、検討中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は本人や家族にホームに見学に来てもらい、雰囲気に馴染むようにしている。家族に馴染むまで頻繁に来てもらい、相談しながらサービスを開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	里芋の皮むきや料理・裁縫等を職員と一緒にやっている。感謝の思いを持って支えあう関係を大切にし、日々のケアに取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや声かけを行いながら、言葉や表情から、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族と話し合い、本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・職員と話し合いを行い、それぞれの意見を計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、評価を行い、期間に応じて見直しを行っている。状態変化が生じた場合は、見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や通院介助・送迎・買い物等、本人や家族の状況や要望に応じて、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。複数の医療機関と連携をとり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての方針は職員で共有している。家族から同意書ももらっている。その都度、本人・家族・主治医・職員と相談し、話し合いを行いながら対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを傷つけないように声かけや対応をしている。個人情報の取り扱いの同意書ももらっている。記録の保管にも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりや都合でなく、買い物・散歩・入浴等、一人ひとりの体調に合わせて、その人のペースで日々の暮らしの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき・盛り付け・片付け等、職員と利用者は、一緒に行い、一緒のテーブルを囲みながら、食事が楽しみになるような支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間は決めているが、体調・要望・希望に合わせて入浴の支援を行っている。入浴を拒む利用者にも声かけを行い、うまく誘導ができています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洋裁の得意な人に雑巾を縫ってもらったり、一人ひとりの力を発揮できるように、また、楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物・ドライブ・外食等、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は交通量が多く、安全面を配慮して施錠している時間がある。外出希望の強い人には、連携を取り合い、見守りながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署と連携を図りながら、昼・夜間を想定して行っている。消防署への通報装置があり、緊急時対応マニュアルの掲示をしている。地域への声かけも行っている。災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量をチェックし記録している。法人内の栄養士にアドバイスをもらっている。一人ひとりの身体状況に合わせた食事形態を考慮し、支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の季節の花に手入れが行き届き、心がなごむみ、市の努力賞をもらった。明るいうらびんぐには、書やぬいぐるみ・人形が飾られて、家庭的な共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から筆筒や鏡台・写真・椅子・時計・化粧品等の馴染みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。